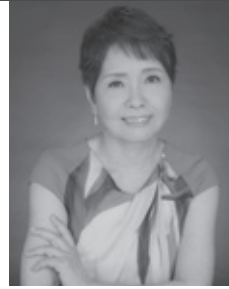


フランスピアノ教育のいま(成人編)

PIANO MUSIC EDUCATION
IN PRESENT FRANCE

文◎末高明美 ●ピアニスト



SUETAKA Akemi

桐朋学園大学音楽学部卒業。パリ・エコール・ノルマル音楽院入学、ディプロマ(教授資格)取得。CD『水織音MI・O・LI・NE』(レコード芸術準推薦盤)、『フランス音楽と俳句』(レコード芸術準推薦盤)を日仏にて同時発売。近年はフランス音楽を中心にソロ・室内楽コンサートを数多く行っている。音楽関係の通訳、講座なども行う。日仏文化協会フランスピアノコンクール審査員を務める。洗足学園音楽大学講師。

第3回

パリのピアニストは どんな生活をしているの？



【写真①】フランソワ・アンリさん(手前)、石橋真由子さんご夫妻。ご自宅にて



【写真②】『石橋真由子 フランソワ・アンリ 演奏会』から



【写真③】夫妻のご自宅で。友人たちとのパーティーの場面

を支援する
気持ちが強
いのだそう
です。
次回は、
作曲家大原
裕子さんの
『イギリスピ
アノ教育の
いま(成人
編)』が始ま
ります。お
楽しみに！

◎練習は毎日しますか？
F「いいえ、今はあまり練習していません。6月にフランス国家音楽院教授資格(CA)取得の試験を受

◎一日に何時間練習をしますか？
M「その日の仕事の量によりませんが、可能な限り練習をしたいと思っています。幸い自宅では朝9時から夜22時まで弾け、その前後もヤマハのサイレントピアノで練習できます。私と夫はコンセルヴァトワールの古楽器のクラスで出合い、自宅にはヤマハの他にプレイエル、そしてスクエア・ピアノの3台があります。二人共家にいる時は、作曲家の時代ごとにピアノを分けて、壁一枚をはさんで同時に練習します。時間があれば練習をするので、一緒に外出することは少ないですが、お互いの演奏を聴き合い、食事中も音楽の話をする人が多いです」【写真①】

◎自由な時間は何をしますか？
M「自分が演奏する曲の作曲家が好んだ文学作品を読んだり、作曲家と同時代の絵画を見るために美術館に行ったりします。体が資本なのでジムにも通って

◎普段どこで教えていますか？
M「スコラカントルム音楽院や合唱団などで伴奏助手を務めながらプライベートで教えています。生徒の発表会は年に2回行います。日本に帰る際は楽器店に寄り、新教材を探すことを楽しみにしています。日本の教材は、子供の発達段階がよく考えられていると思います」
F「三つのコンセルヴァトワールで、個人レッスンと伴奏の授業で週35時間教えていて、生活の大部分を占めています」

最後に、お二人が強調したい点は、パリでは演奏会を催す主催者の数がとても多いということでした。聴衆も日常生活の中でクラシック音楽を愛し、演奏家を支援する

います。食事にも気を使い、なるべく有機栽培の食材を使い、野菜は八百屋で、肉は肉屋で買うことを心がけています。週に3回は日本食を作ります。また私たちは年に1、2回自宅で友人を集めてパーティーをするのですが、夜遅くまで皆で演奏したり、聴き合ったりして、音楽を楽しみます」【写真③】
F「歴史と地理が好きなので、妻と旅行をして、自分たちと異なる文化に触れることも大好きです」
石橋真由子 プロフィール：18歳よりピアノを始める。東京ピアノコンクール優勝後に渡仏。パリ地方音楽院ピアノフォルテ科コンサートイスト課程卒。英・独・仏の音楽祭やリサイタルに招待され演奏活動多数。
フランソワ・アンリ プロフィール：パリ国立高等音楽院ピアノ科高等課程、伴奏科および声楽伴奏科修士課程卒。アナリーゼ科および対位法学科のディプロムを取得。イルドフランス国際ピアノコンクール第1位他受賞多数。